



年長組学年だより No.8
令和3年12月7日
中央区立月島第一幼稚園
うみ組 担任 梶原 英李

～うきうきステージ特集号！～

12月9日（木）に行われるうきうきステージに向けて、学級の友達と協力して取り組んでいます。

取り組んでいく中で、大切にしていること

☆一つの目的に向かって、友達と思いや考えを出し合いながら協力して取り組む楽しさを味わう。

☆学級の友達のよさを認めたり、自分の力を発揮したりしながら、みんなで一緒に進めて行く満足感や達成感を味わう。

今回の「うきうきステージ特集号」では、子どもたちがこれまで劇に向けて楽しんできたことや、当日に向けてご協力いただきたいことをお伝えします。

～劇の始まり～

学級の集まりで、『ももたろう』の絵本を楽しんだ翌日、ももたろうごっこを楽しんでいる子がいました。“楽しいから見せてあげたい”と、学級のみんなに「ももたろうの劇を始めます！集まって！」とお知らせしました。すると、その仲間たちの楽しそうな雰囲気を感じて、「僕はキジやりたい」「犬をやりたい」とどんどん仲間が増えました。なりきって表現するのが大好きなうみ組の子どもたち。全身で表現を楽しみました。「楽しかったから、またやりたい！」「今日は、いつ、ももたろうの劇やるの？」とその日から毎日、『ももたろう』の劇を楽しんできました。劇ごっこを楽しむ中で、「楽しい劇だからお家の人にも見せたい」「年少さん、年中さん、そら組さんも呼びたい」と話題になり、うきうきステージで『ももたろう』の劇をすることが決まりました。

劇名は、『うみぐみ ももたろう』です。

～お話を作ろう！～

『うみぐみももたろう』は、昔ながらの『ももたろう』に、子どもたちがこれまで楽しんできたことや一人一人のアイデアが合わさってできた、うみぐみオリジナルの創作劇です。

“『ももたろう』の研究をしよう！”とみんなで数種類のももたろうの絵本や紙芝居を読み比べたり、“最後に鬼を倒しておしまいだと悲しいから、楽しいお話になるように考えよう”とストーリーについて話したりして、みんなでアイデアを出し合って作りました。大人では思い付かないような子どもならではの発想がたくさん出てきて、うみ組らしい面白いお話になっています。ストーリーの展開にもご注目ください。



桃を割れるようにして赤ちゃんが生まれるのはどう？



電車ごっこが楽しいから、ももたろうの劇に出てくることにするのはどうかな？

～役を決めよう！～

劇をしていく中で、今までの遊びで変身したことがあるものや大好きな動物等、やってみたい役を出し合いいろいろな役を楽しんできました。“『うみぐみ ももたろう』の劇をするにはどの役も大事であること”を話し、子どもたちが気に入った役ややってみたい役を自分で選び、役を決めました。

役が決まると、同じ役の友達と誘い合って、(キジ役の子が)「先生、外で飛んできます！」(アイドル役の子が)「先生！縄跳びしてくるね」と役の表現を楽しんだり、ストーリーに合わせて必要な台詞や言いたい台詞を考え自分たちで台本を作って、劇のストーリーに合わせて動いたりして、遊びの中で劇を楽しむ姿がたくさん見られました。台詞の割り振りは、自分で考えた言葉や言いたい言葉を同じ役の友達と相談して決めました。「どうやったら強そうなももたろうに見えるかな?」「どうやって動いたら本物みたいに見えるかな?」等、その場面の登場人物に合う台詞の言い方や動きを考えながら、進めてきました。



応援団でダンスをするのはいかがでしょうか？



アイドルで縄跳びダンスをしたいから縄跳びの練習をしよう！



フープを持つ人はどうする？鳴き声があった方がいいかな？

～劇に必要な物をつくりたい！～

劇のイメージが膨らんでくると、「鬼ヶ島の絵がほしい」等、劇に必要なものを作りたいという姿が見られました。学級の話題にし、みんなで、何が必要なのかを考えました。大道具や背景等、自分の作りたいものに取り組んだり、友達のことを手伝ったりしながら協力して取り組みました。

衣装も子どもたちが作りました。“その役に見えるにはどんな物を作りたいか”を役の友達と話し合い、今までの経験から作り方を考えたり、材料を選んだりしながら進めました。分からないところや難しい部分は友達同士で教え合ったり、支え合ったりしながら友達と作った力作です。ぜひ、衣装にもご注目ください。



衣装作りで押さえてあげたり教えてあげたり・・・力を合わせて作りました！



「こうしたらどうか?」「これはどう?」と友達とアイデアを出し合い進めました！

～もっとこうしたら楽しくないそう！～

学級のみんなで劇をした後は、振り返りタイムを作り、「友達のよかったところ」や「劇が楽しくなるためにどうしたらいいか」等を話し合いました。友達に刺激を受けて頑張ったことを学級のみんなから認められた時は、とても嬉しそうで、自信をもって取り組む姿につながっていきました。また、「鬼ヶ島に行く時（場面）は〇を使ったらいんじゃない？」「劇の最後に〇〇をしたらどうかな？」とみんなでアイデアが集まることで、どんどん物語が楽しくなっていきました。

大道具の出し入れ、効果音、ナレーターを初めは教師が行っていましたが、「やってみたい！」と子どもたちが自分から動く姿が見られるようになっていきました。舞台上演だけでなく大道具や音響の役割も自分たちで行い、劇を進めていこうとしています。子どもたちが一人一人頑張っている姿や学級のみんなで力を合わせて進めようとしている姿をぜひご覧ください！



ポーズを決めたら
どう？



声が大きくてか
っこよかった！
お客さんにも聞
こえそう！

～「うみぐみ ももたろう」あらすじ～

むかしむかしのおはなしです。森でパンダ、イヌ、ウサギが遊んでいると、大きな桃が流れてきました。桃を割ってみると、なんと、中から4人の赤ちゃんが生まれました。桃から生まれた『チームももたろう』は、強い男の子に育ちました。

そんなある日、森に鬼がやってきて、森の食べ物を全部鬼ヶ島に奪って行ってしまいました。『チームももたろう』は、イヌ、ウサギ、パンダに“食べると元気が出るきびだんご”をもらい、食べ物を取り返すために鬼退治に行くことにしました！

森を進んでいくと、“トラ”“ホワイトタイガー”“キジ”“応援団”“アイドル”に出会い、どんどん鬼退治の仲間が集まっていきます。海の向こうにある鬼ヶ島へどうやって行こうか迷っていると、電車『特急ももしまかぜ』がやってきて・・・果たして鬼ヶ島にたどり着くことができるのでしょうか。そして、どんなラストになるのでしょうか・・・★